

妙法寺だより

令和三年冬号



- 安穏な1年を祈願します！新春大祈祷会
- 1年の締めくくり 大晦日 除夜の鐘
- おてら おやつ クラブ 発送ボランティア大募集
- 令和4年 年回忌のご案内
- 住職コラム 「コロナ禍で苦しむ 曖昧な喪失」
- コロナ禍に求められる「弔い直し」

大祈禱会

正月 9日（日）

午前11時～ 午後1時～ 午後3時～



感染への細心の注意を払いながら
安穩なる一年となるよう 共に祈りを捧げましょう

本年の御祈禱会は、正月9日（日） 午前11時～ 午後1時～ 午後3時～の3回に分け分散化して開催致します。感染への対策を行いながら、少しずつコロナ前のような賑やかな御祈禱会に戻って行きたいと考えております。まだまだ予断を許させない日々が続きますが、年末年始には神仏やご先祖様に令和4年の健康と安泰を祈りにご家族揃ってご参拝ください。

〽 祈禱内容一覧 〽

〇、	N、	M、	L、	K、	J、	I、	H、	G、	F、	E、	D、	C、	B、	A、
寿命長遠	安楽産福子	夫婦円満	除厄開運	心願成就	発育増進	合格成就	学徳増進	社運隆昌	事業繁栄	商売繁盛	當病平癒	交通安全	身体健全	家内安全
元気に長生きできますように	元気な子供が産まれますように	夫婦が仲良く過ごせますように	厄を除き幸運に恵まれますように (厄年に当たられている方の厄除け祈願)	心に秘めた願いが叶いますように	お子様が元気に育ちますように	志望校に合格できますように	勉強ができますように	会社が栄えますように	事業が栄え成功しますように	商売が繁盛しますように	病が治りますように	交通の災難に遭いませんに	健康で過ごせますように	家族が円満に過ごせますように

※御札の申込は年内までお願いします

女性

数え19歳	前厄	平成17年生
	本厄	平成16年生
	後厄	平成15年生
数え33歳	前厄	平成3年生
	本厄	平成2年生
	後厄	平成元年生
数え37歳	前厄	昭和62年生
	本厄	昭和61年生
	後厄	昭和60年生
数え61歳	前厄	昭和38年生
	本厄	昭和37年生
	後厄	昭和36年生

厄年 男性

数え25歳	前厄	平成11年生
	本厄	平成10年生
	後厄	平成9年生
数え42歳	前厄	昭和57年生
	本厄	昭和56年生
	後厄	昭和55年生
数え61歳	前厄	昭和38年生
	本厄	昭和37年生
	後厄	昭和36年生

※申込書には、記号でご記入ください。
※具体的なご祈願をご希望される方は、「祈願内容」の欄にお書きください。内容を考慮しご祈願致します。

◆ 御祈禱料 ◆

特別祈禱	15,000円	(大きな御札)
一般祈禱	3,000円	
車両守札	3,000円	
(同申込者は2台目以降、一台につき2000円)		

祈るころを贈る

妙法寺の特製御守

妙法寺の特製御守は、御祈祷会でも販売致しております。ご自身だけの祈りに止まらず、ご家族やご友人などに「祈るころ」を形にした御守を贈ってみてはいかがでしょうか。受け取った方は、神仏の功德と人の温かみを感じ、喜びや生きる力を得ることができるようではないでしょうか。



獅子舞が登場

各時間の御祈祷会終了後には、皆さんの厄を払い、疫病退散を祈願して、獅子舞が登場します！日本の伝統文化をお楽しみください。



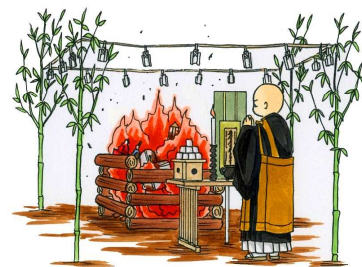
おしるこ

恒例の「おしるこ」のふるまいは、現在行う予定ですが、感染状況によって中止する場合があります。



古い御札 お焚き上げ 正月飾り

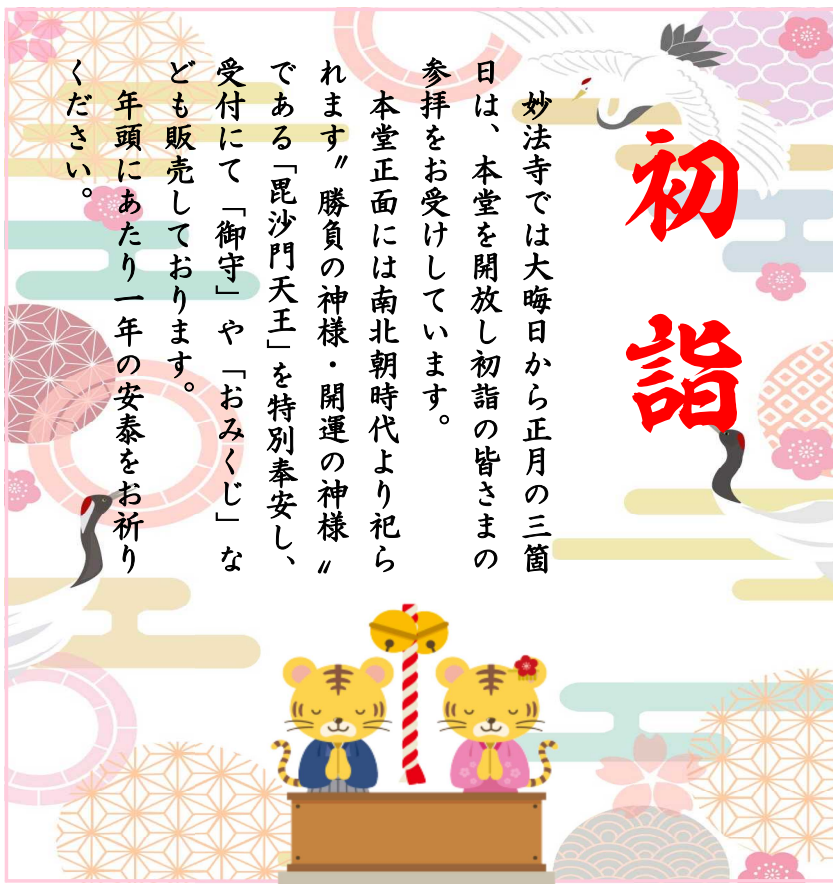
昨年の古い御札、お正月飾りのお焚き上げの品は受付にお持ちください。燃えないものは、お焚き上げできないためご注意ください。



初詣

妙法寺では大晦日から正月の三箇日は、本堂を開放し初詣の皆さまの参拝をお受けしています。

本堂正面には南北朝時代より祀られます「勝負の神様・開運の神様」である「毘沙門天王」を特別奉安し、受付にて「御守」や「おみくじ」なども販売しております。年頭にあたり一年の安泰をお祈りください。



大晦日

午後11時 ～ 歳末報恩会 本堂

午後11時半～ 除夜の鐘 開始

午前0時 ～ 新年祝祷会 本堂

※ 受付は12時30分に終了致します。

※ 例年混雑致しますので、お早めにお越しください。

除夜の鐘

感染対策を講じてお迎え致します



甘酒



初詣



除夜の鐘



俺の私の一文字

お知らせ

◆12月30日～1月9日まで墓参用のお花を販売しております。年末のお墓参りでは、ご先祖様に無事に過ごせたことへの感謝の気持ちをお伝え、年始には今年一年の安泰を祈りましょう。

1対1、500円（お線香付） 1束 750円

※数に限りがあります。在庫状況などはお問い合わせください。



◆お台所にお祀り致します「普賢三寶荒神」様の御札は、12月1日より30日迄、寺務所で用意しております。



一 体
1000円

◆妙法寺では、寺族・従業員一同は、コロナウィルスのワクチンを接種を終えました。今後安心して皆様をお迎えできるよう、感染対策に細心の注意を払って参ります。

☑ 接種済



12月11日（土）午後2時～



おてら おやつ クラブ
発送ボランティア募集



12月11日（土）午後2時より、100世帯のご家庭に向けて「おてら おやつ クラブ」の発送作業を行います。そこで発送のお手伝いを担ってくれるボランティアの皆様を募集致します。これからの時期、冬休み、クリスマス、お正月などの多くのイベントがあり、子どもたちは自宅で過ごすことが多くなります。そのため、希望されているご家庭に向けて、お米などを詰め合わせた発送作業を行います。お手伝いを頂けます方はご一報を頂ければ幸いです。



お米やお菓子などの食品也大募集しております

令和四年 年回忌表

一	周忌	令和	三年
三	回忌	令和	二年
七	回忌	平成	二十八年
十三	回忌	平成	二十二年
十七	回忌	平成	十八年
二十三	回忌	平成	十二年
二十七	回忌	平成	八年
三十三	回忌	平成	二年
三十七	回忌	昭和	六十一年
四十三	回忌	昭和	五十五年
四十七	回忌	昭和	五十一年
五十	回忌	昭和	四十八年
百	回忌	大正	十二年

年回忌のお知らせを同封致します

来々、年回忌に該当される方に「年回

忌のお知らせ」を同封致しております。

ご確認ください。希に古い字などで誤植

がある場合がございます。その際には、

何卒ご容赦頂き、お手数ながらお知らせ

頂きますようお願い申し上げます。

※ご法要は御命日より前に行うのが良いとされています。

※お申込はお早めをお願い致します。

※ご法要の申込は、ホームページからでも行えます。

インターネットを使ったオンラインの年回忌法要は現在原則として行っておりませんが、再びコロナウイルス感染が広がりをみせたり、さまざまな事情（施設に入所して来られない、遠方から来られない、等）の場合には、「ご法要の様子を画面で報告・法要の動画をYouTubeなどでお届け・法要の様子をZoomでライブ中継」など臨機応変に対応をさせていただきます。どうぞお気軽にご相談ください。





はじめに

コロナ禍となってもうすぐ2年がたとうとしています。この2年間、お寺の中でも様々なものが変わってきましたが、その中でも大きく変わったものの一つが「お葬式」です。妙法寺ではコロナウィルスの感染によってご逝去された方のお葬儀を勤めることはありませんでしたが、コロナ禍で多くの葬儀を務めさせて頂き、遺族・親族・友人方の声につぶさに耳を傾けるなかで、多くの人たちが「曖昧な喪失」に苦しんでいることに気づかされました。

最後を看取れなかった苦悩

コロナ禍では、感染対策として病院や高齢者施設ではたとえ家族であっても立ち入りが厳しく制限され、クラスターが発生した病院では、立ち入りを禁止される施設も多く、そのなかで大事なご家族を亡くした遺族は、

“最後の数ヶ月間、まともにお見舞いにも行けず、ベッドの近くで看病もしてあげられず、夫に寂しい思いをさせてしまったことが心残り。”

“臨終に立ち会うことができなかった。亡くなった後、やっと霊安室で対面することができた。きつとひとりでの旅立ちには不安だったと思う。”

という、さまざまな苦悩と後悔の声を耳にしてきました。

コロナ禍で簡略化された葬儀

もともと一般葬（家族・親戚・友人・仕事仲間が集う葬儀）から家族のみで行う「家族葬」が増える傾向ではありましたが、コロナ禍となつて強制的に葬儀を縮小せざるを得ない状況に追い込まれました。

ご遺族のなかには、

“外出自粛が求められるなか、遠方から親戚に来てもらうのは遠慮した。”

“葬儀に駆けつけたい思いはあるが、首都圏に行くことを家族から止められた。”

“通夜振る舞いなどの会食も行えず、お焼香だけでお帰りの頂いたが、なにか心苦しさを感じた。”

という声が散見されました。

首都圏のある大手の葬儀会社の集計ではコロナ禍では半分以上の遺族が葬儀などを行わず火葬のみ行ったという。しかし、多くの遺族はそれは本意ではなかったと感じているという。

“本当は通常通り葬儀を行いたかった。”

“しばらく会っていない実家の兄弟や親戚達も最後に会わせてあげたかった。”

“大好きだった友人とも最後のお別れをすることができず、本当に亡くなったのか実感がわかない。”

という、やりきれない声が多く聞こえます。

もともと簡略化の方向にあった葬儀

「葬儀＝高額」というイメージが強く、金銭的なところばかりが注目され、あまりその意義的なものは語られず置き去りにされてきたように感じます。それは丁寧に説明しない僧侶側にも大きな問題があるのですが、「高額」ゆえに派生する「不要論」は、コロナになる前から声高に叫ばれて「ゼロ葬」という弔いそのものが不要とされる傾向もありました。しかし、今回のコロナによって、くしくもその弔いの儀式の簡略化は強制的に進み、火葬のみが行われ、しっかりと時間をかけたお別れをしたくてもできない遺族が多く、「コロナ禍だから仕方ない」という言葉を口にするこ

によって、自身の気持ちを納得させようとするけれど、心のどこかで「本当にこれで良かったのだろうか」「しっかりとした葬儀をやつてあげたかった」と、虚しさやモヤモヤした気持ちに駆られ、多くの遺族が「曖昧な喪失感」で悩み苦しんでいるように感じます。「高額」という金銭の面ばかりに目が向けられていた「弔いの儀式」がコロナ禍の混乱で生まれた「曖昧な喪失」によって、古来より営まれてきた葬儀の本来の意義や役割を見つめ直し、再認識させられることとなりました。



緊急事態が明けてから行われた御遺骨葬

葬儀の意義を見つめ直す



葬儀は、「故人の来世の安寧を祈る」儀式であると共に、残されたものがその死を受け入れるための儀式でもあると思います。縁ある人々と故人の手柄やエピソードを語らい、「良い人生であった」と讃え、死出の旅立ちを見送り、その旅への畏れを取り除き、来世の安寧を祈ることで、故人の心（魂）だけではなく、残された遺族の心も癒やされ、少しずつその死を受け入れていけるのです。「来世を祈る」という宗教的な儀式であ

ると共に、遺族の心の面においては、その悲しみを共有することによって、大事な人の死を受け入れるために必要なプロセスと役割を果たしていたことを葬儀ができないことで改めて感じました。「弔いの儀式」は大事な人を亡くした時、遺族はその悲しみに向き合い、悲しみと共に生きるために、故人亡きあとに生きていくうえでとても大事な儀式なのではないかと、コロナ禍の葬儀を通じて強く感じさせられました。

コロナ禍での葬儀の経験を通じて感じることは、寺院（僧侶）においても、葬儀社においても、従来のような形骸化されていた葬儀をもう一度根本から見つめ直し、遺族と故人の目線に立ち、その代弁者となるような葬儀を営む、再編集される時期なのではないかと感じます。

「弔い直し」が求められる

今、僧侶として、考え、取り組めることは、コロナ禍によってすっかりとした「お別れ・弔い・葬儀・供養」ができなかった方々のために「弔い直し」という時間と場所を設けることだと考えています。読経や参列者の焼香によって故人を供養して来世の安寧を祈り、生前に縁あった人々が集う場をつくり、故人を語ってもらい、旅立った故人の声に耳を傾け、志を引き継ぎ、悲しみを共有し、そしてその悲しみを、生きるための優しさや力に変えることが、寺院や僧侶に求められているのではないかと考えています。そのような取り組みを次ぎページでご提案させていただきます。

コロナ禍で大事な人を亡くし
十分に弔えなかった方のための

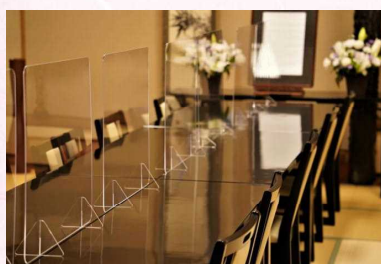
弔い直し

お友達・仕事仲間を弔う



葬儀に参列できなかった大切なお友達、共に仕事に励んだ仕事仲間のご供養を、参列者お一人でも、ご友人やお仲間との複数人でも、本堂でご供養を営むことができます。命日やお戒名（法号）がわからなくてもご生前の名前（俗名）がわかれば大丈夫です。

偲ぶ会



一周忌や三回忌の法要後に、ご縁ある人たちと共に「偲ぶ会」を営むことができます。故人の好物やお酒を楽しめるよう感染対策を整え、思い出の写真や動画を投影できるよう大型テレビやスクリーンを、好きだった曲を一緒に聞いたり、思い出を語り合えるように音響機器を整えました。是非ご活用ください。

「弔い直し」や「偲ぶ会」につきましては お気軽にお問い合わせください

12月5日 浄心道場

午後3時 第一部 供養会
午後4時 第二部 法話会

講師 妙法寺住職 久住謙昭

講題 慈悲 敬い 感謝の実践

南無妙法蓮華経のこころ



日蓮宗 妙法寺では、法華経を読み「南無妙法蓮華経」とお唱えします。では「南無妙法蓮華経」とは一体どのような教えなのでしょう。瀬野泰光著『南無妙法蓮華経のこころ』をテキストに、その精神と生き方を紐解きます。

どなたでもご参加頂けます。

是非、足をお運びください。

オンラインでのご参加は

下をご参照ください。

Peatix

パソコンから



<http://peatix.com/>

Peatix トップページより
浄心道場と検索。

スマートフォンから



QRコードを読み取り後、
Peatix トップページより
浄心道場と検索。



▼11月7日(日)の「浄心道場」は、未来の住職塾 塾長 松本紹圭さんをお招きし、「受け取った恵みに目を向ける」と題しご講演頂きました。講演後には、自分自身が受け取っている「恵み」について話は合うワークショップも行われました。



▲11月7日(日)には、日蓮聖人・日昭聖人の報恩会式が役員の皆様のご参列を賜り営まわれました。法要後には、筆頭総代の交代式が行われ4年間お勤め頂いた細谷延さんから近藤康弘さんへと筆頭総代のバトンが交代されました。



▲10月9日(土)には、「お焚き上げ法要」を営みました。古い卒塔婆やお位牌、祈祷札などに、読経し修法祈祷を行い、浄火によつてご供養致しました。

行事報告